

## 授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護学実習Ⅰ	担当講師	杉垣ひとみ 全教員
実施年次	2年次	単位数	2単位	時間数	90時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>成人期は青年期・壮年期・中年期とライフサイクルの中でも最も長い時期で、身体的には成長・成熟・衰退への変化、精神的には各期の発達課題を達成しつつ老年期に向かっている時期である。</p> <p>多くは家庭や社会の中心としての立場にある成人の健康は、他者や社会に対する関係・できごととの関連が大きい。成人期の健康課題は生活習慣病や悪性腫瘍、うつなどのストレス関連障害などが大きなウェイトを占めるが、それにはまず「予防」が重要である。本科目実習ではその「予防」に焦点をあてた実習を関連する授業と並行する時期に実施し、それをふまえて健康障害を来した成人への看護を学ぶこととする。</p>					
時間	単元目標		内 容		
30	1. 地域で生活する成人期の対象が理解できる		1-		
			1) 成人期の特徴をふまえた対象理解		
			2) 成人期の生活の特徴と健康問題		
	2. 地域で生活する成人期にある人の健康保持・増進に向けた看護が実践できる		2-		
			1) ワークライフ・バランスを考えた生活を整える看護		
			2) 生活習慣病を予防するための看護		
	3. 地域における看護の役割を考えることができる		3-		
			1) 成人期の生活の場の特徴と看護の役割 －家庭・地域・職場		
			2) 健康診査の意義と推進への工夫		
60	4. 成人期の発達段階の特徴をふまえ、健康の回復・苦痛の軽減に向けた看護が実践できる		4-		
			1) 成人期の特徴をふまえた発達段階・生活の理解		
			2) 対象者の病的状態と治療・処置・検査		
			3) 健康障害の受け止め方と回復への認識		
			4) 対象者と共に創る看護計画		
			5) 生活援助を中心とした看護の実践		
			6) 対象者と共に行う評価		
	5. 保健・医療・福祉チームの連携の実際と看護の役割と責任について理解できる		5-		
			1) 病棟における医療チームとの連携・協力		
			2) チームにおける自己の役割の認識		
	6. 対象者に行われている看護に問題意識をもち、看護について考える		6-		
			1) 対象者への看護援助を振り返り、看護について考える		
			2) 自己の看護者としての成長と課題の自覚		
評価方法	出席時間・実習評価は実習要項に準じる				

## 授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	老年看護学実習Ⅰ	担当講師	和田 美穂 全教員	
実施年次	2年次	単位数	2単位	時間数	90時間	
<p>科目設定のねらい</p> <p>超高齢社会となり、看護を提供する高齢者の生活場所は多岐にわたる。地域実習では、健康寿命延伸に向けて健康支援の実際を経験することにより、老年期にある対象者の生活を理解する。病院実習では、「治療場所」という環境変化にある対象者の尊厳を尊重し、身体的・精神的・社会的側面の変化を捉え、科学的根拠に基づいた看護を実践する。地域から病院、病院から地域生活へといった医療・保健・福祉のあり方と社会資源の活用、地域包括ケアシステムについて理解する。</p>						
時間	単元目標	内 容				
30	1. 地域で生活する対象者の健康に対する考えやニーズを聴きアセスメントできる  2. 介護予防支援が実践できる  3. 地域の保健医療福祉計画について理解し、その中で看護職者が担うべき活動、役割について理解できる	1- (1) 地域の環境 (2) 高齢者の生活と健康 (3) 高齢者の健康障害と生活 (4) セルフケア能力 (5) 健康指標の動態（人口動態、疾病構造、受療状況など）  2- (1) 高齢者の自主的な地域交流活動への参加 (2) 転倒予防支援 (3) 認知症予防 (4) 誤嚥性肺炎予防 他  3- (1) ヘルスプロモーション (2) 一次予防、二次予防、三次予防 (3) 地域の保健医療福祉計画と看護活動 (4) 学びと課題の明確化				
60	4. 老年期にある人を包括的に捉え理解できる。  5. 老年期にある人の症状や障害に応じた看護援助を行い、成果を検討する。	4- (1) 対象者への尊重態度 (2) 対象者の生活史、老年期の発達課題 (3) 老年期にある対象者の身体的・心理的・社会的特徴 (4) 対象者の健康障害と主要症状 (5) 対象者に行われている治療・処置・検査と看護 (6) 治療環境と生活  5- (1) 対象者への援助の根拠の明確化 (2) 正確なバイタルサインの測定・フィジカルアセスメント、観察技術 (3) 対象者の残存機能・自立性を考慮した個別に応じた援助 (4) 対象者への予防的関わり・変化を予測した援助（医療安全） (5) 必要な情報の報告・連絡・相談技術 (6) 看護実践評価				

	<p>6. 保健医療福祉チームにおける看護師の役割と責任について理解する。</p> <p>7. 看護職の専門性について考えをまとめることができる</p>	<p>6-</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 高齢者を支える家族関係・支援状況</li> <li>(2) 退院調整・退院支援</li> <li>(3) 保健医療福祉チームの中の看護の役割</li> <li>(4) 他職種との役割、連携の在り方</li> </ul> <p>7-</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 老年看護の責務</li> <li>(2) 医療倫理、看護倫理</li> </ul>
評価方法	出席状況、実習要項に準ずる	